

設楽ダム工事関連遺跡範囲確認調査 たきせ 滝瀬遺跡・やつほしおひら 八橋大平遺跡・おおさき 大崎遺跡・おこなぐら 大名倉遺跡

所在地 北設楽郡設楽町八橋字タキセ・字大平、田口字大崎、大名倉字下谷・南貝津  
 調査理由 設楽ダム工事  
 調査期間 平成19年5月・10月  
 調査面積 200㎡  
 担当者 宮腰健司・松田訓

調査の経過 調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成19年5月と10月に実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、滝瀬遺跡16ヵ所、八橋大平遺跡19ヵ所、大崎遺跡29ヵ所、大名倉遺跡36ヵ所のテストトレンチを設定した。

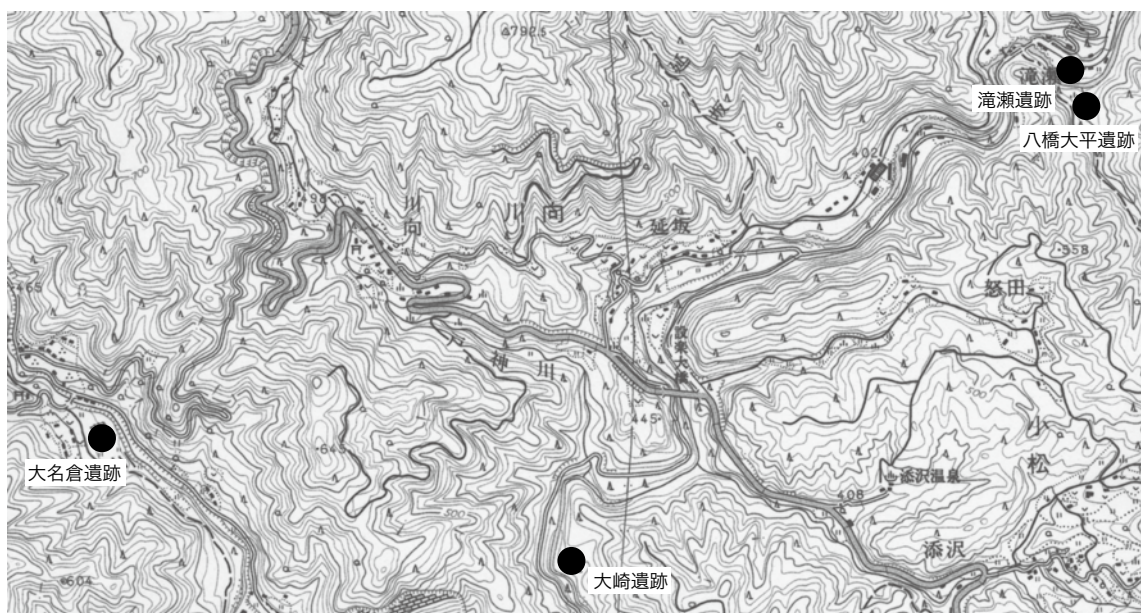
立地と環境 滝瀬遺跡は標高約420mの境川右岸河岸段丘面、八橋大平遺跡は標高約425～445mの長江川右岸の山麓緩斜面、大崎遺跡は標高約363～378mの境川左岸の緩く傾斜する平坦地、大名倉遺跡は標高約428～442mの寒狭川右岸の河岸段丘から山麓緩斜面に立地している。

調査の概要 滝瀬遺跡には、河岸段丘平坦面の南側に16ヵ所のテストトレンチを設けた。その結果8ヵ所で縄文土器・打製石斧が出土し、T.T.08・09で竪穴住居と思われる落ち込み、T.T.10・11で土坑を検出している。

八橋大平遺跡では8ヵ所のテストトレンチで灰釉陶器・近世～近代陶磁器・寛永通宝が出土したが、明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。

大崎遺跡ではT.T.23・24で土坑が検出され、9ヵ所のテストトレンチで縄文土器・石鏃・灰釉陶器・古瀬戸・近世陶磁器が出土している。

大名倉遺跡には、河岸段丘の南側と下位の東側に36ヵ所にテストトレンチを設けた。T.T.26で近世～近代陶磁器が出土したのみで、その他の地点では明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。  
 (宮腰健司)



調査地点 (1/2.5万「田口」)